

私の祖母は、五十四歳の時に原因不明の病を発症、以後、半身不随に加え両手の自由がきかなくなりました。自力では起き上がれないのはもちろん、寝返りや物を掴むのもままなりませんでした。私は、祖母の家を訪れた時には必ず介護を手伝いますが、祖母の手に触れるたびに祖母は、うまく力が入らない手で僕の手を握り返します。毎回、私が学校や家族の話をする時、祖母は「最近の出来事などについて話してちょうだい」ととても楽しそうに私の話を聴いてくれます。

私は、幼い頃「夢の扉」というテレビ番組で紹介されていた「足こぎ車椅子」という商品を見ました。下半身不随の人でも、この「足こぎ車椅子」を使ってリハビリに励むことで、歩くことができるようになるという実例をテレビ越しに見て、早速祖母に勧めたところ、三十年も寝たきりだったのに祖母は、支えを借りれば一時的に立てるようになることができました。その時の祖母の会心の笑みを見て「なんて素晴らしい物を作ることができるんだ」「私はどのようにしたらこの笑みを増やすことができるのだろうか」と考えるようになりました。

祖母は、よく私に「いつ思いっきり地面を走れなくなるかわからないから、今の内に精一杯遊んでおきなさい」と言います。リハビリに使った「足こぎ車椅子」のような画期的な物を作ることができれば祖母が感じた悲しみを少しは、軽くすることができるんだと確信しました。

今回、税の作文を書くにあたって税のことを調べてみると税金が一番多く使われているのは社会保障だということを知りました。祖母も、住民税、所得税、贈与税などの控除を受け、障害者年金の受け取り、更には祖母の医療費や介護用具の一部も税金で賄われていることを知りました。

私は、障害者の方が感じる「不自由」を少しでも軽減する活動をして国や国民の小さな助けになりたい。一方で政府には私たちの託した「税金」を使ってたくさんの不自由をなくしていただきたいと思いました。

日本国民の中には税金とは、ただ収めているだけのものだと勘違いしている人もいるかと思いますが、しかし、よく調べた結果、税金とは私たち国民と政府とがしっかりと信頼関係を持って、お金を預ける私たち自身が恩恵を受ける未来への投資なのだということが分かりました。

私たち高校一年生の世代は二年後に参政権を得るという重要な出来事があります。私たちの意見を世に反映できるような人を選ぶとともに私たち自身が社会に貢献できるようにたくさん勉強をして知識を蓄えていかなければならないと思います。